

琵琶湖・瀬田川の水質概況速報（平成19年度第3四半期）

琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第16条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき琵琶湖および瀬田川で、採水、水質分析を実施しています。

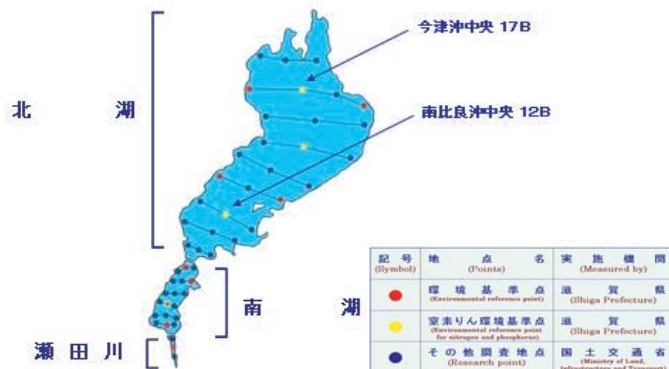
このたび、平成19年度第3四半期分について水質概況速報がまとまりましたので、水質概況をお知らせします。

なお、琵琶湖・瀬田川水質は、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値は、後日、修正が加えられることがありますのでご了承ください。

1. 調査方法について

北湖28地点、南湖19地点、瀬田川2地点の計49地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所と当センターで協力、分担し表層0.5mでの毎月の水質変動を調査しています。

また、北湖深層部における水深別調査は、当センターでは今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約90m地点今津沖中央（通称「17B」）において、月2回実施しています。



琵琶湖水質調査地点

琵琶湖北湖の代表点として17B、南湖の代表点として唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成19年度第3四半期までの水質概況はつぎのとおりです。

なお、17Bの経月変化グラフは定期調査および水深別調査結果を平均した値で示されています。

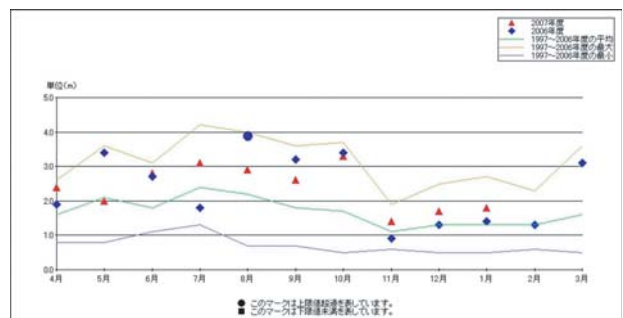
2. 調査結果について

南湖調査結果

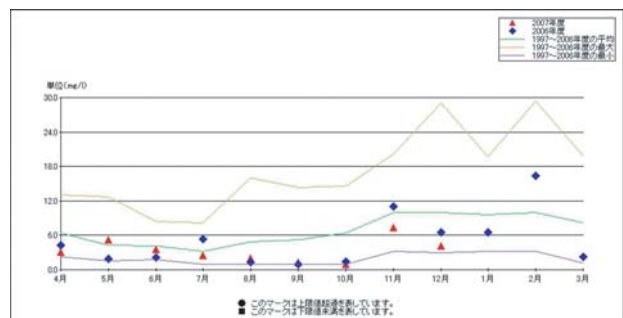
透明度については、気象条件、水草の繁茂状況等の影響を受けやすいため昨年度の経月変動と異なった動きを示していますが、今年度前半は過年度(H9～H18の平均値)に比べ若干高めに推移しています。

透明度に影響を与えるSSの推移を見ると、透明度と連動した推移が見られ、夏季の透明度の上昇およびSSの低下は水草の繁茂による影響だと考えられます。一方、秋季からの変動は、過年度並の変動を示しています。

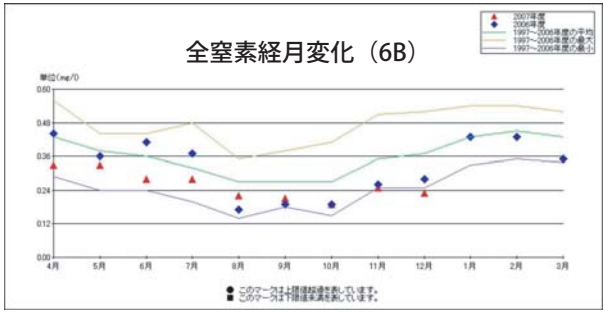
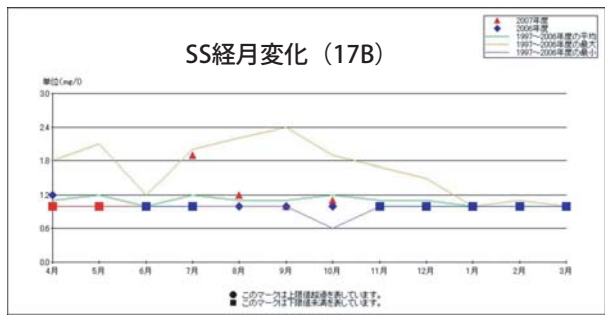
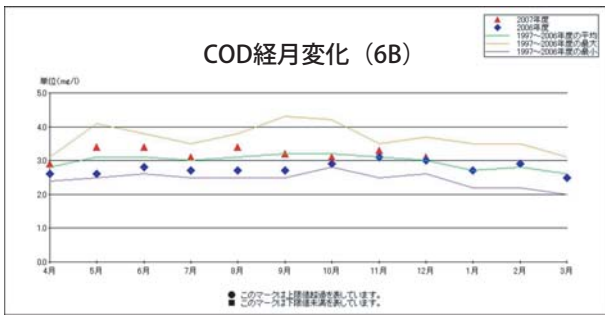
透明度経月変化(6B)



SS経月変化(6B)



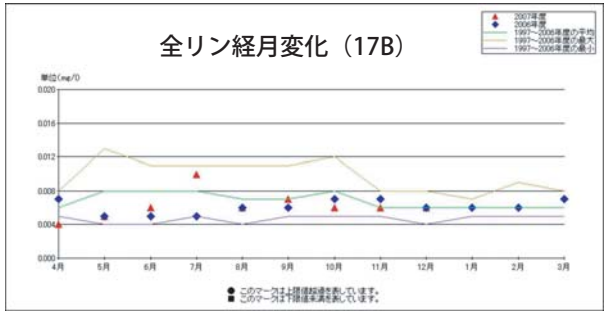
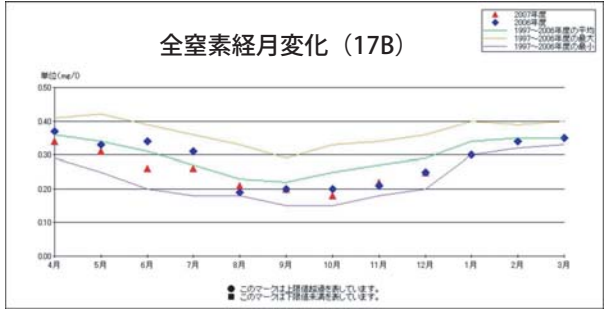
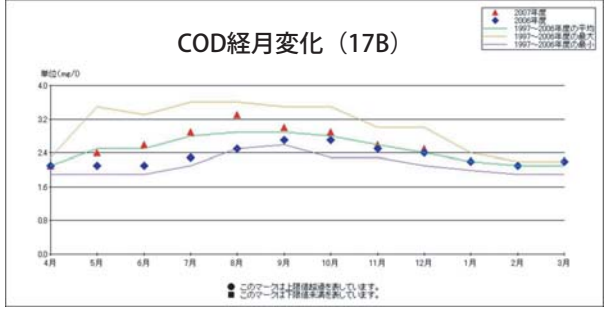
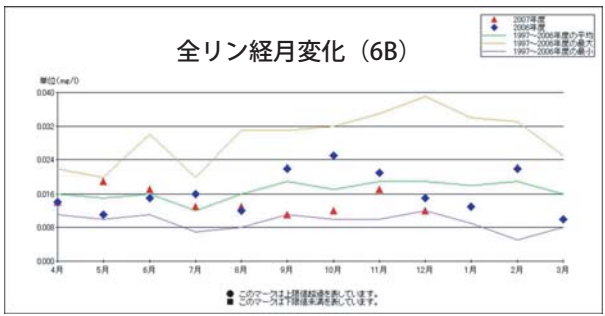
有機物指標であるCODについては昨年度に比べ高めに推移していますが、過年度と比較すると過年度並みの値で推移しています。富栄養化項目である全窒素および全リンは過年度よりやや低めで推移しています。



COD については、昨年度に比べ高めに推移していますが、過年度と比べると同様の推移を示しています。

全窒素、全リンについても過年度と同様の推移を示していますが、7月には全リンの濃度が高くなりました。

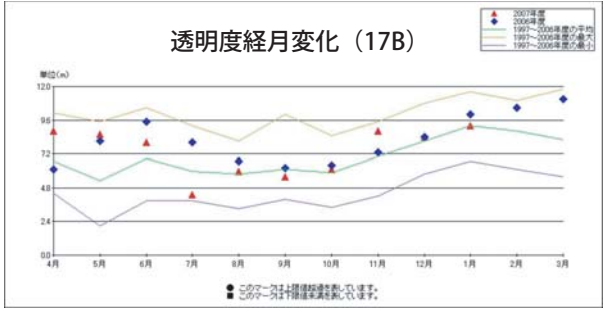
これは、前述にもあるように植物プランクトンの藍藻類 (Aphanothece) の増殖によるものであると考えられました。



北湖調査結果

透明度については、4～6月は若干高めに推移し、SSの推移を見てみると、定量下限値(1mg/L)以下とかなり低く、このことが透明度の上昇に寄与したと考えられました。

しかし、7月には過年度最低値に近い値となり、同様にSSの変動を見てみると、過年度最高値近くに上昇していました。これは、この時期に植物プランクトンの藍藻類である、(Aphanothece)が増殖しており、このことが透明度低下およびSS上昇の一因であると考えられました。



さらに詳しいデータはこちらから検索できます。
http://www.lberi.jp/root/jp/06db/suisitu/bkjhsuisitu_top.htm#data